

桜島の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

昭和火口では、7月28日に噴煙高度が3,000mを超える噴火を2回観測しました。これ以降は、8月10日に昭和火口で、8月23日に南岳山頂火口で各1回の噴火が発生しました。昭和火口では、その他の日は少量の噴煙が火口縁上50mから400mで推移しました。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いており、山体の膨張を示す地殻変動も観測されていません。

これらのことから、南岳山頂火口及び昭和火口から2km程度の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性が低くなったと考えられ、本日(28日)15時00分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを3から2に引き下げました。

今後、南岳山頂火口及び昭和火口の周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、これらの火口周辺では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

なお、昭和火口の噴火活動は、2006年6月の噴火以降、長期的には次第に活発化している傾向がみられます。今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

○活動概況

・噴煙活動の状況(図1)

昭和火口では、8月10日に火口縁上1,800mを超える噴火が発生しましたが、これ以降、噴火は観測されず、噴煙の高さは火口縁上50~400mで経過しました。

南岳山頂火口では、23日に爆発的噴火¹⁾が発生しましたが、雲のため噴煙等の状況は不明でした。

・地震及び微動の発生状況(図1)

火山性地震及び火山性微動の発生は、少ない状況が続いています。

・火山ガスの状況(図1)

8月26日に行なった現地調査では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり500~600トンと、前回(8月8日:700~900トン)や前々回(7月28日:700~1,300トン)と比べて大きな変化はありませんでした。

・地殻変動の状況(図2, 図3)

大隅河川国道事務所が設置した有村観測坑道の水管傾斜計による傾斜観測では、大きな変化はありませんでした。

GPS連続観測では、山体の膨張を示すような顕著な地殻変動は認められていません。

1) 桜島では、爆発地震を伴い、爆発音、体感空振、噴石の火口外への飛散、または气象台や島内の空振計で一定基準以上の空振のいずれかを観測した場合に爆発的噴火としています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号:平17総使、第503号)。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)で閲覧することができます。

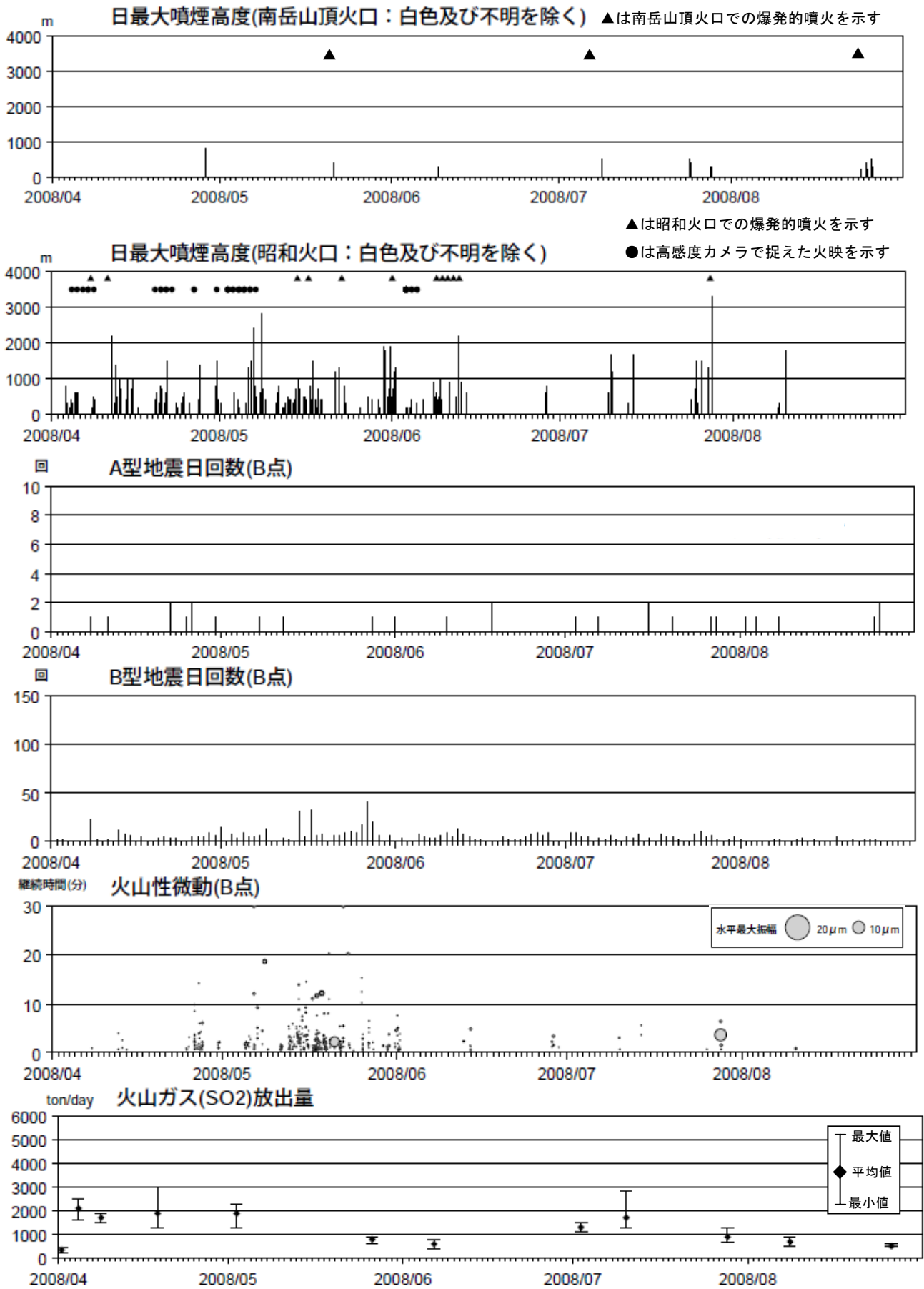


図1 桜島 火山活動経過図 (2008年4月1日~2008年8月26日)

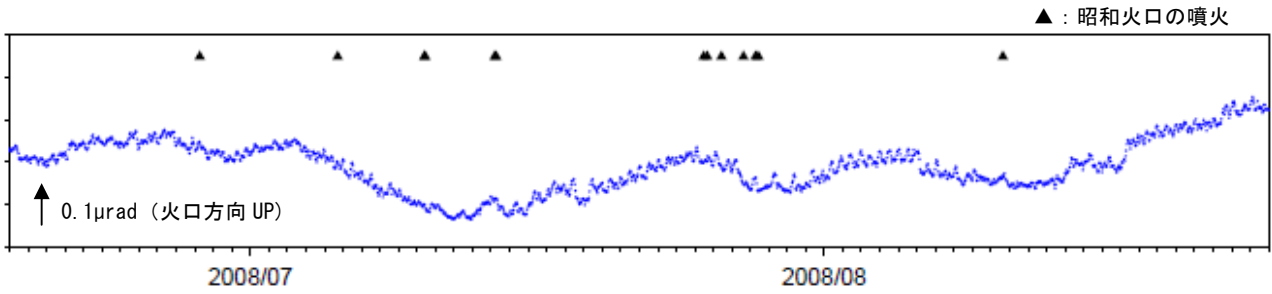


図 2 有村観測坑道の水管傾斜計*の変化 (2008 年 6 月 13 日～2008 年 8 月 27 日)

* 大隅河川国道事務所提供

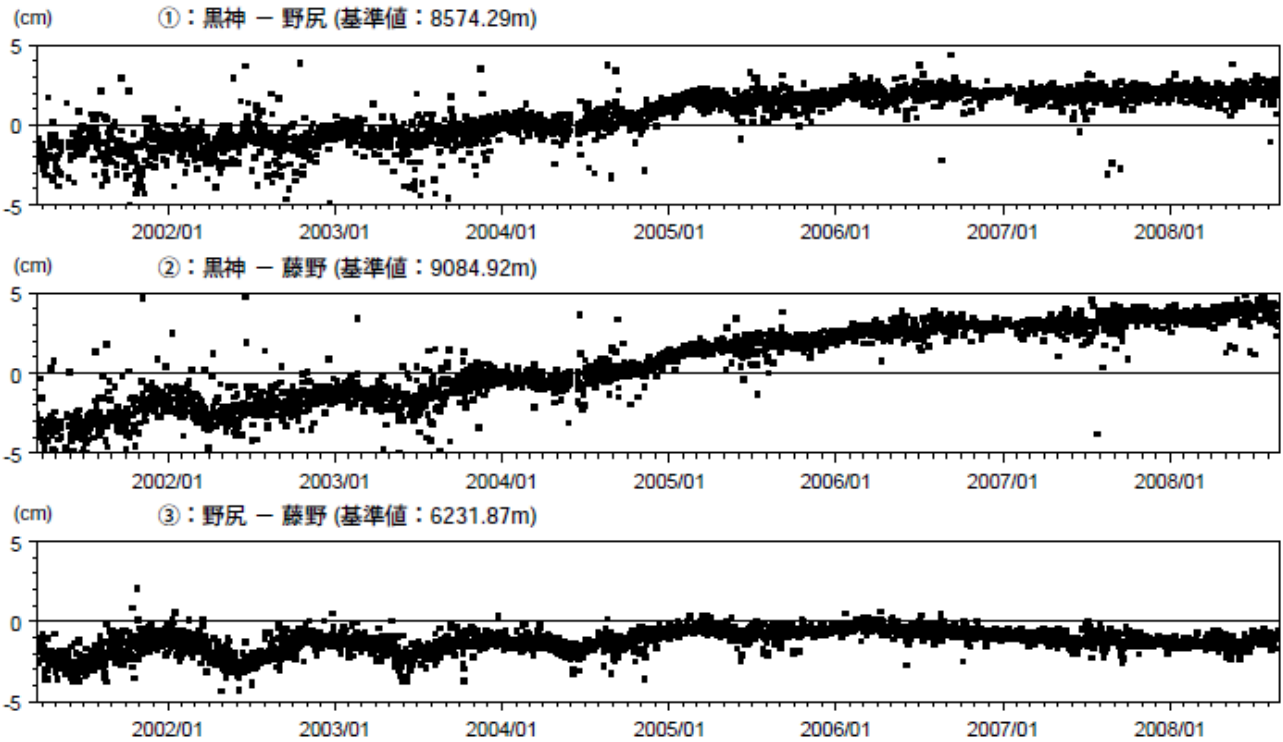


図 3 桜島 GPS 連続観測による長期の基線長変化(2001 年 3 月～2008 年 8 月 27 日)

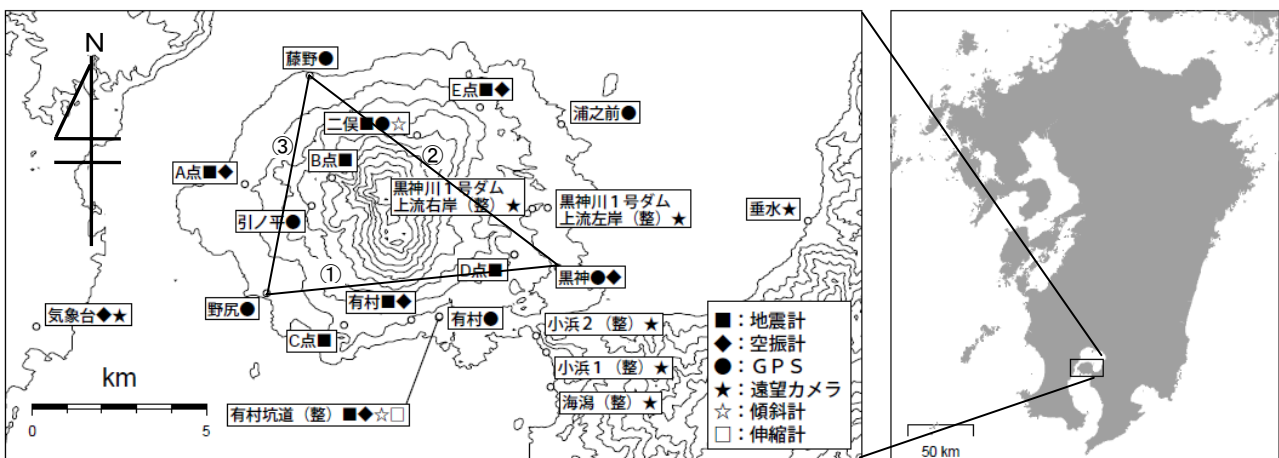


図 4 桜島 観測点配置図

①、②、③は図 3 の GPS 連続観測の基線長に対応します。